（天位）

或る日記より

ながもと・いさむ

十一月十五日　晴、晴、家族同伴自動車にて給料受に行く、手取二十五万三千円也、三鉱労働銀行に預金として五万円

三鉱デパートにて買物少々、三階食堂で暖い昼食を済し帰途御多まで ドライヴ、清涼の秋を賞す、運転は長男と交替にてなす

十二月三日　晴、高度に機械化された坑内は能率百パーセント

本日の求炭掘進延尺十二尺六寸助手と二人で万事OK、昼坑後保安常会あり先月の成績発表によれば死、重傷者皆無軽傷一名とのこと、この一名の軽傷の件につき議論白出完全なる保安設備を要求する。

十二月廿日　晴、世界自由労連の一よくとしての三鉱労組の前途洋々、組合長以下幹部三名の海外視察兼世界自由労連会議出席は有意義なり、本日期末手当支給さる、五拾万円也、差当つて四はねばならぬものも思ひ当らないし、えへい、テレビションも二台位あつて良いだらう、これにきめよう。

（地位）

正月早々五十函取り

三川　葛西　正身

自家発電瓦斯ヒロワット時、世話掛がスイッチを入れると一番方炭鉱マンは二階起床、各家庭の電熱器にかけてあつた釜の中の米、鍋の中の鯛、豆腐の味噌汁が一度に仏壇して僅か三分間で朝食万事OK、飯喰つて作業衣のまま家を出ると百人乗バスが社宅の表門前に待つていた。

バスの中は常夏の国の機内。煙草、憤慨も控て雑い点はあつたけれども

さて、応募二十四篇何れも甲

選後に

きたはら・かずお

「炭鉱マンの夢」の選を引受けてナンセンスを優先とするか、ユーモアを取るかを相当頭を悩ましたが、最終的にはユーモアを選択する事にした、又技術的には外にも優れた作品を見受けたが炭鉱マンの夢は矢張り炭鉱に関連ある夢を好ましいものとした、勿論人間としての夢

そうした序列であるので全く矛盾が無いとは云い得ないが知れないが理屈は抜きにして感度を重点にして読んで頂き度いと思つて

乙はつけ難かつたが前述の基準に基いて大別して鳳を選した、これからが全く行き詰つて仕舞つた、普通は内容、表現、大衆性等を勘案して序列を覆げる可き所であるが、今回はそんな常識を全く無視して感度と大衆性に頼る事にした、従つてデスクにつき議論百出完全なる保安設備を要求する。

十二月廿日　晴、世界自由労連の一よくとしての三鉱労組の前途洋々、組合長以下幹部三名の海外視察兼世界自由労連会議出席は有意義なり、本日期末手当支給さる、五拾万円也、差当つ

からは初中央委員会の実況を録音放送している。バスが動き出すと会社から今日の賃込放送が拡声機を通して聞えてくる。坑口にバスが横着け、我々は直ちに入坑切羽へ向ふ。元気旋刷、スコは寒よりも暖く正月早々午前中三十函取り、正午になると無償の昼食が配給される。ほぼの落ちそうなビフテキ湯気の立上つた、山盛一せん飯生卵食後、果物等々、午後は石炭が細の様に暗く二十函取り、賞金に換算して一万五千円稼がせど。

乙はつけ難かつたが前述の基準に基いて大別して鳳を選した、これからが全く行き詰つて仕舞つた、普通は内容、表現、大衆性等を勘案して序列を覆げる可き所であるが、今回はそんな常識を全く無視して感度と大衆性に頼る事にした、従つてデスクにつき議論百出完全なる保安設備を要求する。

十二月廿日　晴、世界自由労連の一よくとしての三鉱労組の前途洋々、組合長以下幹部三名の海外視察兼世界自由労連会議出席は有意義なり、本日期末手当支給さる、五拾万円也、差当つ

（人位）

落盤防止液の発明

三川鉱　中尾　種夫

採炭工の鴨尾掘進は多年研究の結果、「落盤防止液を発明した。この防止液は短時日で簡単に出来、携帯にも便利でしかも安価なのが特徴である。九州大学の試験でその効果は著しく、どんな悪い天井でも一度この防止液を撒布すると絶対落盤しない。従がつて坑内には鉄柱や木クワも不必要であることが証明され彼には鋼やかしい工学博士の賛辞が贈られて来た。

このことが新聞にも発表され炭鉱界はもとより土木建築界にも一大センセイションを巻き起した。落盤防止の為めにこれ迄の防止液はさて苦心の上完成したこの防止液は、今や予想外の恩恵を社会に与へ、文明の発展に寄与したのである。

無名の鉱夫、鴨尾掘進は一流名士となつたが彼は、採炭をつづけ乍ら「落盤防止液」改善に今日も亦たゆまぬ努力を続けている。

選後に

きたはら・かずお

「炭鉱マンの夢」の選を引受けてナンセンスを優先とするか、ユーモアを取るかを相当頭を悩ましたが、最終的にはユーモアを選択する事にした、又技術的には外にも優れた作品を見受けたが炭鉱マンの夢は矢張り炭鉱に関連ある夢を好ましいものとした、勿論人間としての夢

そうした序列であるので全く矛盾が無いとは云い得ないが知れないが理屈は抜きにして感度を重点にして読んで頂き度いと思つて

新年文藝募集に当つて

編集部長　平島　敏治

機関紙「みいけ」が創刊されてよりの春、秋文藝募集がなされて来たが、その応募数は甚だ寂しいもの であった。一九五二年の新年文藝募集に当つては組合員各位の御協力に依つて応募延数九〇七篇にのぼり、文化みいけの躍進振りに遺憾及執行部一同歓喜している次第であります。

調査計画に於てその選は組合幹部イズムに促されることを極力さけてその選者も斯道の権威者に依頼した次第で、選衡は信頼に足るものと確信しています。

なお各種目毎に選者の方々より詳細に選評があつていますので熟読願い度いと思いますが末端選評については紙面欄成上掲載されませんが調査部としては時期を見、最善の努力を払つて投稿者諸士に選評の伝達方を図り度いと思つています。

今回の募集では投稿数の多い割に女子組合員及婦人会の方達の投稿の少いのは残念でしたが今後の努力をお願いしたいと思います。

なお種目毎の投稿は

○感想文　三十六篇
○児童作文　二十七〃
○小説　四十八〃
○短歌　二百五句
○俳句　二百六十七句
○川柳　二百二十一句
二十七篇
四十一〃
十六〃
二十一〃
九〇七〃
計

以上の様な投稿の状態でありますが締切期日の十五日が切れて十六日に着くものが相当多く発刊の都合ともにらみあわせ機関紙としての使命も考え十七日着迄ぎり一杯審査に間に合せたものゝその審査しきは二十日過ぎて着くのも相当多数あつた有様でした。

発刊の都合もあるので今後の問題の募集に当つては期日厳守を願い度いものであります。

入選発表

▲劇作（岩下俊作選＝選者の希望で特に入選だけに留を厚くするのを避け「位から五位までを入賞範囲にしましたので御諒承下さい）

（一位）悪魔と油断（本所＝坂本不三男）（二位）鐘（三川＝北村千麻夫）（三位）転機（三川＝峰穀慶）（四位）霜の朝（製作＝吉田滝）（五位）ひげのおつさん（三川＝下垣康正）

（選外佳作）△夜＝青木照子△心も晴れて＝永野章平△年明＝海付昭四郎△晩食時間＝田川光広△春ふたたび＝稲田登子△が強いので藝術的価値判断の外に

小さな生活＝宮本常一△小代の霜＝藤里敬△妻の俤＝比良於光夫△妻の日記＝藤里敬△借金を背負つて＝佐藤臣色△生きてゆく＝藤里醇吉

▲詩（舞野一平選）

（天）寝床（三作＝山田秋治郎）（地）傷痕（三川＝河原畑陸男）（人）キャツプランプ（三川＝飯正樹）

（佳作）河野哲久、ながもと・いさむ、中尾三男、松田巍光、坂本不三男、ながもと・いさむ、桑十秋、志岐芳郎、清田只雄、相川千代女

▲短歌（岩本宗二郎選）

（天）三川＝柳原美博（地）三川＝山田治夫（人）三川＝吉崎天馬

▲俳句（泉剛花選）

（天）勝立＝江崎春夢（地）四山＝鷲尾はるえ（人）四山＝尾祥松

▲児童作文（編集部選）

（一位）北平校四年＝乗鹿国もと・けいこ
（二位）駒鳥南校三年＝みやもと・けいこ
（三位）三里校六年＝江口双美子

▲炭鉱マンの夢（きたはら・かずお選）（天位）或る日記より＝ながもと・いさむ（地位）正月早々五十函取り＝三川葛西正身（人位）落盤防止液の発明＝三川中尾種夫（秀逸）木下美行、永野隆輝

▲感想文（編集部選）

（一位）組合と家庭＝永野玉枝（二位）廿七年の炭鉱労働運動について＝三作秀郎（三位）組合と家庭について＝三川葛西正身（四位）組合と家庭について＝正木晩（五位）廿七年の炭鉱労働運動＝三作高田利雄

▲笑話（編集部選）

（入賞）希望退職五人男＝三川葛西正身△赤足袋＝富浦永野隆輝△同性相憐む＝三川柳原美博衣に来るもの＝三川柳原げんろく△新領土＝下田弼史

▲感想文（編集部選）

（一位）組合と家庭＝永野玉枝（二位）廿七年の炭鉱労働運動について＝三作秀郎（三位）組合と家庭について＝三川葛西正身（四位）組合と家庭について＝正木晩（五位）廿七年の炭鉱労働運動＝三作高田利雄

▲笑話（編集部選）

（入賞）希望退職五人男＝三川葛西正身△赤足袋＝富浦永野隆輝△同性相憐む＝三川柳原美博衣に来るもの＝三川柳原げんろく△新領土＝下田弼史

▲短歌（岩本宗二郎選）

（入選）港務＝山口伝務、三川＝中尾三三男

▲写真（俳作）本所＝田代等

創作選評

岩下　俊作

特別な作品を除いて殆と総てのおきたい、「霜」「年明」の生活ものが生活の実感が呼吸苦しい迫体験と素朴で健康な倫理性には技巧を離れて敬服した。多少小説的に迫つてきていた「寒ふたゝび」も「年明」と同様なよさがあり、どうやら体験らしく受けと間」も「年明」と同様なよさがあるのが、文学の問題以外に比重のことは作者が年若い女学生で感度が低いので藝術的価値判断の外に迫つてきていた「寒ふたゝび」巧を離れて敬服した。多少小説的な構成はもつているが、「屋食時間」も「年明」と同様なよさがあり、どうやら体験らしく受けと間」も「年明」と同様なよさがあるのが、文学の問題以外に比重る。勤労者らしい潔癖さがなかつたのと確信しています。

なお各種目毎に選者の方々より詳細に選評があつていますので熟読願い度いと思いますが末端選評については紙面欄成上掲載されませんが調査部としては時期を見、最善の努力を払つて投稿者諸士に選評の伝達方を図り度いと思つています。

今回の募集では投稿数の多い割に女子組合員及婦人会の方達の投稿の少いのは残念でしたが今後の努力をお願いしたいと思います。

なお種目毎の投稿は

○感想文　三十六篇
○児童作文　二十七〃
○小説　四十八〃
○短歌　二百五句
○俳句　二百六十七句
○川柳　二百二十一句

詩

（天）

寝床

三作　山田秋治郎

誰からものそかれず
誰も侵入して来る者もなく
私と妻と
唯二人でそこに寝る

一日のことをそこで語り
おかしい時には
声を殺して笑い
苦しい時には慰め合い
うれしい時にはいたき合い
かなしい時にもいたき合う
ときにはいさかいをし
お尻を向けて寝て

私と妻と
唯二人でそこを所有する

多くは
子供がほしいと語つては
激しいキツスを交し合い
時間のたつのを忘れたりする
私は妻と
唯二人でそこを所有する

（地）

傷痕

三川　河原畑陸男

ねむつた眞似をしては
いつまでもねむらず
そんなこともあり

雪野一平選

はがねいろに透徹した初冬の空のこの深さが
俺には、どうにもならない怒りのかなしみとなるのだ。
ことごとく霜枯れの草を震はせて
通勤列車は朝日も　この土手を走ることだろう。
二輛目のいつもの場処に突立ち
遠い山脈を追う　あいつの目には、かつては働くことの歓喜を
崩壊けのように、輝き昏らせたのだが……。
一一ある、蹴言を注いだ嘔吐器
あいつの顔貌の青い斑痕よ。
『圧縮空気』にふきたゝかれ、
はじけきぞくの血漿に掌を濡つたあの瞬間から
あいつは最早俺達と語ろうとはしない落葉の日日があり
興いくる白智えの郷愁、あいつの中広い肩背から華浪のように
若さを捩め
黄昏やすい冬の夜のかげをとも
ない
俺達の夢をも拉していきそうだつた。
如何に流氷の歳月があろうとも
あいつがおかしたさ一つの悔恨は、忘却のなかにはお歳暮の
白き尾をひくに違いあるまい。
乏しい生活の荷重にあえぎ来て
さらに懐疑と憂悶の霧の夜を選
ばねばならない理由が何処にあ
ろうか。
地圧に耐えて、みにくくゆがめ
られた女性のように
あいつが自ら背負つた劫念の青
い烙印を再び俺達は想に
苦渋の亀裂として焼きつけよう
とは願はない。
貪い暮しに希望を掲げ、より
よき社会の創造のゆえにこそ、
犠牲の祭に礎跪き、ようこの
燭火を掲ぐることの無意味さを
今こそ覚ばばならないのだ。
「安全第一」「安全第一」……
それはけっこうのいとなみえの護符
である
明日を生くる俺達えの　道標で
ある。
「安全第一」と　夫れが虚しい
祈とうの言葉であつてはならな
いことを
冷えびえとした　車窓の玻璃の
むこうからあいつの青い傷痕は
呼びかける。
二輛目のいつもの場処に突立つ
と吊革を　掴みしたあいつの指
節の荒みにも、脚絆にかためた
踏割に確さにも仲間にのみ信じ
られるたくましい血のぬくみが
なお生きる残り
俺達の胸に勇気と通進の虹をな
げ画く。
光りの隈、風の匂ひとてばるか
な地殻の底で
四季の花を忘れ、俺達は今日を
黒々とした鉱脈の流れの果てか
ら「ツル」を振上げるのだ。
初冬の空のこの深さが、はがね
いろのあいつの傷痕に似ていれ
ばこそ
俺には、どうにもならない怒り
のかなしみとなるのだ。

（人）

キャツプランプ

三川　飯正樹

カンテラからキャツプランプへ
時代の表情を刻んで
追憶の歯車を逆転させても
地下では種一つの裸身が
今も変らぬ汗を流している
刻苦、と放露
勤勉、とけん意
過去をまた、おしなべて
忘却の彼方のものであつた
炭鉱労働者ー
しかし、ランプはいつも
彼らの上に光り輝いていた
或時はー
落盤死の屍体からもいで来を
キャツプランプが
基盤光を保つていたし
或時は
血糊にまみれて
或時はー
ぺしゃんこになつて
昇坑してくるランプもあつたが
いつもデスマスクの様に無言
であつた
ある太陽を背に
四季なき地下に
忍苦の営みをつづける
健げな一変しき、人々に
太陽の慈愛と、明星の希望とを
ランプよ、その光明と共に
しみなく、降りそゝげ

選評

雪野　一平

応募された全作品を一読して
ピカソと光つたのが天賞の「寝
床」である。その印象は何度他
の作品とくらべても変らなかつ
た。元賞に推した所以である。
淡白なつゝやきにぴつたりと過
不足のないテクニツクがマツチ
し、一つも嘘をいわず生活を語
り、他人に押しつけるものもな
く、珠玉のようにまとまつた一
篇であると思う。

地賞の「傷痕」は読み返すほ
どに味わいが出てきた。感分か
昏り過ぎた感があるが、それだ
けにこの詩は恐ろしく念入すい
ことがなされている。そこから
言葉の重さが出てくるのであ
ろうが、それは作者の憤りの真
実味を現すものであろう。

人賞の「キャツプランプ」は
前の二作からすると少し劣い作
品になる。肩を張つた熟語の空
転が目につく。もつと沈んだ言
葉で出すように意慾をセーブし
た方が効果的である。佳作一席
の「白い煙突」の巧みなテクニ
ツクとどちらを採ろうかと迷つ
たが、結局この詩に見える作者
の炭鉱従事者としてのキャツプ
ランプによせる愛情をいただい
た。

「白い煙突」は天賞の「寝床」
と並べてよい技術がみえる。
特に煙突の擬人法は成功してい
る。しかし反建設的な結論が好
きになれなかつた。

佳作二席の「秋日短想」は題
名通りスケツチ風の詩である。
軽妙な技術の良さがよく効いて
いるが、それだけにすつぺら
で作意がのぞかれる。生活の心
いがない。

以下佳作に選つた八篇の詩は
どれもそう大差あるものではな
く席順もそう厳密に定められな
い。作品としては良い点より映
点の方が多いものばかりである
ただ作者の言わんとする所がは
つきりしてまとまりがあり、真
実味のある作品から採つた。

全体としていえば、ちゃんと
原稿用紙に清書された作品に佳
い作品が多かつた。今後の投稿
には常にこのことを心がけられ
たいものである。自分の大切な
作品を美しく書き上げて出すこ
とは、自分の分身たる作品に対
する愛情である。作品に愛情を
持たなくては、とてもよい作品
を書くことはできまい。ノート
の切れはしやハガキに書かれた
作品にはまず良い作品は一つも
なかつた。

しかし、全部の作品に共通す
る点で、非常に素直で幼いなが
らも真正面から題材に取組んで
あるのは、何より嬉しいことで
ある。多作多読されて、ますます
良い作品が集るよう「みいけ」
のためにお祈りする。

一位

平原校四年　森　義國

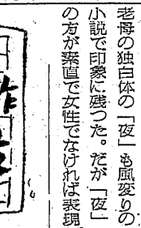
お父〔母〕さんの給料日

もうすぐお母さんの給料日が来ます。

毎月十五日が給料日ですから、ぼくはもう一週間位前からづつと計画しています。そして「お母さんはニタリと笑つているのではぼくはおかしくておかしくてとうとう大笑声で笑い出してしまいます。

給料日に買ってもらつたから皮靴が組合員の人と何かのんきそうに話顔をします。それで私は十五日に揃ふと私はお隣の美智子さんの様をしていらつしゃる。「お父さんは」とにもあそびに行かないでお家でべんきようしてしかられないように家をつけています。すつと前に私は赤いゴムまりがほしくてたまりませんでしたので、お母さんにたのみました。するとお母さんはお父さんが給料もらつて来たら買つてあげますと言いました。私は早く十五日になればよいとまつていました。十五日になつたのでお父さんにたのみました。お父さんは学校でいらないものは買つてやりませんと言つて私をにらみました。私はびつくりしました。

お父さんはお母さんに給料袋をだしながらお金がないのに何故そんなやくそくをしますかと言つてお母さんまでしかりました。私はあんなにたくさんお金があるのにと思つてふしぎでたまりませんでした。それから私は十五日が一番たまらないようになりました。



題「朝」

岩本宗二郎選

「評」炭鉱勤労者の気持ちがよく現れている。朝の歓喜と安堵感とがさながらに表現されている。「卵ほどの光り」が非常に効いていてこの歌を鮮明にした所がうまい。

地　三川坑　山田治夫

落盤より危く命を救ひたる同僚と坑口の霧路をて出づ

「評」何かドラマチツクな構成を思わせる。それが極めて確実な手法を以てよく描かれている。夢ろまとまる過きている点が却つて感動を稀薄にした感みがある。

人　三川坑　宮崎天馬

年明け仕事始めのスコツプに貯炭が朝の陽光に崩る

「評」躍動性がある。生々とした感きがある。健康な生活感を示す一首であろう。

秀逸　宮浦坑　中島　九

昇給を祝うと妻のとのへし朝餉の卓に恥ちつつ向ふ

港務所　下田弼史

妻もとる友に祝電打たむとて今朝出勤を少し早くす

新春雑詠

岩本宗二郎

（入選）港務　山口伝務

三位

三里校六年　江口双美子

朝御飯を皆より早くすませた私は すぐ家を出ました。人事係事務所の前にはまだ七人位しか並んでいない。まだ時間は早い。事務所の時計は七時十分だからお父さんが来るまでもう五十分またねばなりません。私は今日とても嬉しい事があるのです。この前からお父さんにおねだりしていた皮靴を買てもらふのです。セーラ服は先月の

悪魔と油断

創作〔入選一位〕

坂本不三男

早瀬は斜坑の入口に来た時、非常な疲労を覚えた。それは毎日入坑する時感する不安又は恐怖に近いものだつた。落盤、入水、自然発火、そう言つた変災が何時生命を奪ひ去るかもしれない、地下幾千尺のそうした惨事の起る率は大きいのである青い空ともこれつきりお別れになるのか、そんな不安に駆られ乍ら入車に乗つて切羽へ向つた然し暗い坑道を歩いて居ると過去五年間の経験からそうした不安も徐々に薄れて、切羽に着くころは旺盛な労働意欲のみなぎつた採炭夫としての心に変つた

習慣的に周囲の壁と天井を調べ異常の無い事を確かめると、鶴ひよくドリルを握つて掘進を始めた。飛散る粉炭がじみ出る汗にこびり着いて顔も体も真黒になつて、ドリルの先に集中して掘進を続けた。早瀬はどんなさ細な炭壁の異常も逃すまいとする決意と、一塊の石炭をも多く掘らうとする意欲とを打込んで掘進した。昼が来た。だが漸く十函の炭を掘つただけで、日ごろの半分である。真黒な手で汗を拭き乍ら今日に限つて意外にかたい炭層を怪しく思つて、鶴はしで炭壁をたゝき乍ら念入

りに調べたが彼の経験からしてそこに何か異変があるとは思へなかつた。昼食の時採炭係員に尋ねて見様かと思つたが、然しそんな事を質問して笑われたら、とそのまゝ黙げなかつた。

早瀬にとつてそうした安危よりも、明日の生活の方が心配である。午前中あんなにかたかつた炭層が柔かくなつて居る、二時間ばかりで十三函掘つたのでホツとして再びドリルを握つて掘進中天井からバラバラと岩石が落ちて来た。日ごろの彼だつたら決してそれを見逃がす筈はなかつたが、何の不安も抱かずグウツとドリルを炭壁に押し当てた。瞬間、異様な音と共に突如天井から落下して来た。

早瀬は反動的にアツと叫ぶと共に本能的に突き落される様な恐怖と共に目の前が真暗になつた。遠い耳鳴りの底から「早瀬しつかりしろ」「目をひらくやられて居るな」「大丈夫かなア

「出血がひどいなア」と担架を運んで居る者がそんな事を言つた。との位置はれたか見当はつかなかつたが、鼻の脇くと共に薬品のにほひが強く鼻を打つた。「手術室へ」と言つて早瀬を手術台へ寝かせると医師はな

れを脱き乍ら別の病室へ移された。柔かい寝台の上へ横たわると、はりつめて居た気が一時にゆるんでホツーと遠くなつた。

三日後早瀬は深い睡眠から覚めると、朦朧とした意識の中で「気がついたね」と言つた。早

彼は三日間何も食べていないのだ、母が朝つて呉れる卵を三個続けてすすつた。早瀬は卵の余滴を舌で味ひ乍ら生きて居る事の喜びをしつた。若しあのまゝ死んで居たら俺は今、自分といふものを意識する事は出来ないのであろう。ましてや卵の味をーそう思ふと目がしらが熱くなるほど嬉しかつた。「御珍察です。」声と共に看護婦が入つてきた。「昨晩は良く眠りになりましたか？」「えゝ昨晩、ぐつすり眠りました。おかげ様で今朝はとつても気分が軽くなつたらしいんですよ」「そうさつきは生卵をいただいて」「ほう！」母とそんな問答をし乍ら、医師は真験な目つきで丁寧に傷をしらべた。治療が終ると「あの、先生。目はどんな工合でせうか」と母はたづした。医師は気の毒そうな声で「残念乍ら駄目ですね」とはつきり言つた。「出血がひどいなア」と担架を運んで居る者がそんな事を言つた。との位置はれたか見当はつかなかつたが、鼻の脇くと共に薬品のにほひが強く鼻を打つた。「手術室へ」と言つて早瀬を手術台へ寝かせると医師はな

れを脱き乍ら別の病室へ移された。柔かい寝台の上へ横たわると、はりつめて居た気が一時にゆるんでホツーと遠くなつた。

三日後早瀬は深い睡眠から覚めると、朦朧とした意識の中で「気がついたね」と言つた。早

彼は三日間何も食べていないのだ、母が朝つて呉れる卵を三個続けてすすつた。早瀬は卵の余滴を舌で味ひ乍ら生きて居る事の喜びをしつた。若しあのまゝ死んで居たら俺は今、自分といふものを意識する事は出来ないのであろう。ましてや卵の味をーそう思ふと目がしらが熱くなるほど嬉しかつた。「御珍察です。」声と共に看護婦が入つてきた。「昨晩は良く眠りになりましたか？」「えゝ昨晩、ぐつすり眠りました。おかげ様で今朝はとつても気分が軽くなつたらしいんですよ」「そうさつきは生卵をいただいて」「ほう！」母とそんな問答をし乍ら、医師は真験な目つきで丁寧に傷をしらべた。治療が終ると「あの、先生。目はどんな工合でせうか」と母はたづした。医師は気の毒そうな声で「残念乍ら駄目ですね」とはつきり言つ

た。「やはりいけないんですか」母は絶つたひとみをすつと早瀬の白い繃帯へ落した。早瀬は天井を仰いだまゝ動かうともしないで、あの時採炭係員に見て貰つたら、油断をして居なかつたらこの惨事を未然に防ぎ得たかもしれないのに、早瀬はそうした自責になやんで居ると「痛むの？」「いゝえ」「何かあげ様か」「何も欲しくない」「そう、余りよくよくしないでね。明日からの事は心配しなくてもいゝから」母は早瀬の事でも考へて居るのだと思つてやさしく言つた。「お母さん、窓を開けて」母は立つて窓を開けた。外は青い空が拡がつて、遠い山脈は紅葉に染まつて居た。「まあ、美しい山だね」母は小首をかしげて山を仰いだ。早瀬はともすればかすみ勝ちな左の目を開けて、穏やかな秋の風景をぢつと見つめて居た。

（大隅　仕繰工）

新春の映画

東宝映画

荒木又右衛門

脚本は「羅生門」で日本映画界初のヴェニス国際映画祭大賞を獲得した黒沢明が第二回目の時代劇作品として採り上げたのが三大仇討の一つ荒木の月のマドンナ」のジーン・ケン又右衛門の仇ト「船団最後の日」「最後の突撃」などで、ケントが従来の役柄から一転して明るく楽しい喜劇のヒロインを演じているのが注目をひく。（30一2上映三川金映、同時上映銭形平次捕物帳）

大映

母子船

ありふれた「母もの」だがこの役松島トモ子には驚かされる。たつた五才それが大人の俳優を相手にまさしくカキクドくのである。貧しの母三益愛子とか老人菅井一郎とかが悲しい声で何かをいうとこの子は本当にそそをかいて了つてカメラの前で泣き出しているようだしかも泣きながらちゃんとセリフを作つた会社であるが、この映画化で興行は本年ホープさんの好調につづいて山本嘉次郎がメガフォンをとつている。キャストは生物にはピッタリの池部良、現代物の藤巻秀は初めての高峰三枝子に三船敏郎が先輩役で二人の仲をとり持つ役で、新東宝の香川京子がアレッシュな色どりをそえて出演している。

（上）舞姫夫人　（下）母子船

正月第一週第二週は映

此の券提金三十円割引　金

割引券

三鉱労組

東宝

女心誰か知る

北条誠原作、平凡連載小説の映